

I 研究の概要

1 研究主題

一人一人が学校生活を楽しみ、
互いを支え合うことができる人間関係づくりの推進

2 研究主題設定の理由

学校教育目標

心豊かで確かな学力と強い体力・気力を持ち、
たくましく生きる広木の子どもを育てる。

今日の教育的課題から

- 一人一人の児童が、自分の持ち味や個性を生かし、豊かな人間性や自己実現を図れるような資質を身に付けたり、自分で考え、自分で決定する自己指導力を育成したりすることが大切である。
- 学校教育で児童の生きる力を育てていくには、豊かな生活経験の機会、様々な問題解決の機会を提供し、児童が自分で考え、決断し、問題解決に取り組む姿勢が求められる。

新習指導要領のねらい

- 児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開すること
- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するための思考力、判断力、表現力その他の能力を育むこと
- 主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かす教育の充実に努めること

児童の実態から

- 明るく元気の良い子どもたちが多い。
- クラスの範囲を越えて、楽しく過ごす子どもたちが多い。
- 困っている友だちに寄り添い、助けようとする子どもがいる。
- 友だちの感情を思いやることができず、傷つける言動を発する子がいる。
- 自分が感じていることをしっかりと伝えることができない子どもがいる。
- 友だちの名前の呼び方に「くん」「さん」をつける習慣が身に付いていない子どもがいる。
- 友だちに対して、軽はずみに暴力をふるう子どもがいる。

課題の集約

- 学校生活の中で、発達段階に応じた人間関係づくりをどう育てていけばよいかを明らかにしていく必要がある。
- 各教科等において、人間関係づくりを意識した学習活動を大切にしていかなければならない。

指導法や指導体制を工夫したり、人間関係づくりを生かす環境を整備したりして、「学校生活を楽しみ、お互いを支え合うことのできる」児童の育成を図る。

研究主題

3 研究主題のとらえ方

(1) 「一人一人が学校生活を楽しむ」とは…

児童にとって楽しく学校生活を送りたいという願いをもつことは、ごく自然のことである。それを実現するためには、一人一人が尊重され自分の存在価値が認められているという実感を味わわせることが大切である。そのためには、学校という生活基盤が豊かで安心できる場であること、そして、児童が所属する学級では自分という存在を確かめられ、身をゆだねることができる場であることが不可欠である。

児童が目を輝かせ、目標をもって喜んで登校し、目標達成のために自ら努力したり友だちと切磋琢磨してよりよい味方や考え方を気づいたりする。また、友だちや先生方と語り、ふれあいを深めながら信頼関係を築こうとしたりする姿を「一人一人が学校生活を楽しむ」姿ととらえた。

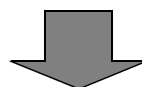
一人一人が学校生活を楽しむためには、

- ・ 明確な目標をもつこと
- ・ 各教科・領域の学び方がわかること
- ・ 規則を守り、よりよい人間関係づくりを努めようとする態度をもつことができる児童を育成していくことが大切である。



一人一人が学校生活を楽しむ

互いを支え合うことができる人間関係づくりの推進



(2) 「互いを支え合うことができる」とは…

学習中の話し合いや、学校生活の中で起こる問題を解決していく場面では、一人一人の存在や主張を認め、「尊重する態度」「許容する態度」や、相手の考えや思いを理解したり、自分の考えをしっかりと伝えたりするコミュニケーション力が必要となってくる。

一人一人の存在を認め、相手の立場や気持ちを思いやることができる態度で学校生活を送る姿を「互いを支え合うことができる」人間関係が構築された姿ととらえた。

互いを支え合うことができる人間関係をつくるためには、

- ・ 自分の特徴やよさに気づき、認めること
 - ・ 友だちの特徴やよさに気づき、認めること
 - ・ 互いを尊重し合い、向上していこうとすること
- ができる児童を育成していくことが大切である。

今年度は、生徒指導の視点に立った学習指導での取り組み、日常生活での取り組みを通し、人間関係づくりの実践を進めていく。研究の1年次に当たり、学習指導については各教科・領域の中のどのような単元、どのような学習内容の部分で人間関係づくりを培うことができるかを考え、人間関係づくりを高める学習活動や教師の手立てを研究していく。

4 目指す子どもの姿

子どもたちが次のような状態にある時に、好ましい人間関係ができているのではないかと考える。

- やる気があり、目標をもって喜んで登校する。
- 明るく元気なあいさつができる。
- 目を輝かせて学習に取り組み、友だちと教え、磨き、高め合うことができる。
- 自分の考えを、すじ道を立てて発表できる。
- 友だちの考えを、よく考えながら聞くことができる。
- 掃除や委員会、係活動など、互いに協力し、最後まで一生懸命に取り組んでいる。
- 日常生活の中で、困っている人や悩んでいる人がいるときに、その人の立場になって考えたり、手助けをしたりできる。
- 自分の困っていること、悩んでいることを他者に相談できる。
- 自他のよいところを認め合い、相手を大事にした関わりをもつことができる。
- 規則を守り、冷静に善悪の判断ができる。
- 「今日一日、学校に来てよかった。」と満足して下校する。

私たちは、人間関係づくりにおいて目指す子どもの姿を「共感・思いやり」「主張・存在」「奉仕・協力」の3つのグループに分け、学年部ごとに分けて設定した。

目指す子どもの姿

	共感・思いやり	主張・存在	奉仕・協力
低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 間違っても笑わない。友だちに優しい声をかける。 ・ よい意見には拍手をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の意見をはっきり言える。 ・ 人の目を見て話したり聞いたりできる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進んでゴミを拾ったり、スリッパを並べたりする。 ・ 最後まで、できるように励まし合う。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 失敗や過ちを許す。 ・ 自分と違った意見にもすぐ反対しないで、よく聞くことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人の気持ちや立場をよく考えて自分の思いを伝える。 ・ 自分の感情や好き嫌いに左右されず、誰にでも同じように関わる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習でつまづいた友だちに親切に教えることができる。 ・ 友だちと力を合わせて、進んで清掃活動に取り組む。
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友だちの意見を比較しながら聞くことができる。 ・ 相手の思いや心の痛みを感じ取りながら、関わるることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを筋道立てて伝えることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい環境づくりのために自分の責任を果たすとともに他者に対しても関心を持って働きかけることができる。

II 研究の構想

1 研究の全体構想

研究主題

一人一人が学校生活を楽しみ、
互いを支え合うことができる人間関係づくりの推進

仮説	友だちに対して、やさしい思いやりのある言葉をかけたり、援助の手を差し伸べることができたり個々の実践力が高まれば、人間関係が円滑になり、楽しい学校生活を送ることができるのではないかと。
----	---

研究内容

- (1) 研究の仮説を立て、研究の視点を明確にする。
- (2) 人間関係づくりを生かす学習活動はどうあればよいのか、全職員が共通理解し、本校における指導法の改善を図る。
- (3) 人間関係づくりを生かす教室や学校の環境を整える。
- (4) 研究授業・授業研究を通しての実践研究を行う。
- (5) 研究の成果と課題を明確にする。

研究計画

1年次（平成23年度）	2年次（平成24年度）
<ul style="list-style-type: none">○ 人間関係づくりについて、本校の抱える課題の集約○ 各教科・領域の中で、人間関係づくりを生かす学習指導のあり方	<ul style="list-style-type: none">○ 人間関係づくりの心情や態度、実践力を直接的に高めることのできる道徳や学級活動での実践

2 研究組織



Ⅲ 実践例

期 日：平成23年9月26日（月） 学年・組：2年2組 授業者：MH

1 教科／単元 体育／ボール投げゲーム

2 単元の見積

- (1) ルールを守り、場の安全に気をつけて、互いに仲よくゲームを行い、勝敗を受け入れようとする。 【関心・意欲・態度】
- (2) ゲームを楽しむための簡単なルールやコートなどを工夫することができる。 【思考・判断】
- (3) ボールを投げる、当てる、捕るなどの遊び方を身につけて、みんなでゲームが楽しくできる。 【技能】
- (4) お互いのよさを認め合い、理解し合う中で、相手の立場に立って考えることの大切さや助け合うことの大切さに気付くことができる。 【人間関係づくりの視点】

3 本時（3／9）

(1) 目 標

- ルールを守り、安全に気をつけて、友だちと助け合いながら的当てゲームに楽しく取り組みようとする。 【関心・意欲・態度】
- みんなと助け合っ的に当てる方法やルールを考える。 【思考・判断】
- 的当てゲームをしながら、ボールを投げたり、的に当てたりするなど、ゲームを楽しむための簡単な技能を身に付けることができる。 【技能】
- お互いのよさを認め合い、理解し合う中で、相手の立場に立って考えることの大切さや助け合うことの大切さに気付くことができる。 【人間関係づくりの視点】

(2) 授業仮説と視点

ボール投げゲームを通して、友だちのよさを発表したり声かけをしたり、ルールを工夫したりするなど、自他のよさを認め合い高め合う場を設定すれば、活動への意欲が増し、よりよい人間関係を育むことができるのではないかと。

本 時 の 視 点

- ① 場の設定はどうだったか
 - ・準備運動後のボール慣れの運動
 - ・チームのよさを生かした作戦立てや練習
 - ・「ほめほめカード」を用いた友だちのよさの紹介
- ② 子ども同士の話し合い、声かけはどうだったか
 - ・ゲーム中の声かけ
 - ・ゲーム後の反省
 - ・勝敗に対する反応
- ③ 教師の手立て、指導助言はどうだったか
 - ・作戦の立て方
 - ・ゲーム中や作戦タイム
 - ・学習のふり返りの時

(3) 実 際

過程	主な学習活動	時 間	指導上の留意点 (○)・評価 (◆) (人間関係づくりに関する留意点は波線)
つかむ ・ 見通す	<p>1 準備運動をし，体をほぐす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 体ほぐし運動 ・ ボール渡しリレー ・ 輪っか通し練習 ・ キャッチボール <p>2 学習のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>もとになるゲームをしてルールを工夫したり，友だちのよいところを見つけたりしよう。</p> </div>	1 1	<p>○ 怪我を防ぐため，入念に準備運動をするよう声かけをする。</p> <p>○ 輪っか通しでは，自分のレベルに合った距離から投げさせる。また，ボールは，少し硬めのボールや柔らかいビニールのボールでさせる。</p> <p>○ 輪っかは大小4つずつ準備しておく。</p> <p>○ 2メートルから5メートルまで段階的にチャレンジさせる。</p> <p>○ 相手の胸をねらって投げるよう声かけをする。</p> <p>○ みんなが楽しめるルールを作り上げることや友だちのよいところを見つけることなど，学習の内容の見通しを持たせ，学習への意欲を高めさせる。</p>
挑戦する	<p>3 もとになるゲームをする。</p> <p>C：まを見て投げると当てやすいな。</p> <p>C：○○くんじょうずに当ててるなあ。</p>	1 3	<p>○ 苦手な児童もやりやすいようにビニールボール1個で，各チーム2分間ずつさせる。</p> <p>○ 的は(大)であることを告げる。</p> <p>○ <u>ゲームをしていない児童には，友だちのよいところを探させたり，ルールで工夫した方がよい所はないか考えさせたりし，ほめほめカードに記入させる。</u></p> <p>◆ 的に当てる方法やルールを考えることが出来たか。 【思考・判断】</p> <p>資 ほめほめカード</p> <p>◆ 的をねらって，投げたり当てたりすることができたか。 【技能】</p>

工夫する	<p>4 気付いたことを発表する。 C: まとが大きかったから、当てやすかった。 C: あまりなげることができなかった。</p> <p>5 的当てゲーム I をする。 C: まとが小さくなるとむずかしいなあ。 C: どうしたらうまく当てられるかなあ。</p>	1 3	<p>○ 発表できた児童を賞賛する。 ○ みんなが楽しめるルールを作り上げるといふ観点から、問題点を話し合わせるとともに、新たなルールを設定させ、的当てゲーム I をさせる。 (例)・ 的は(中)です。 ・ 距離を長くする。 ・ 守備を一人つける。 ・ ボールを小さくする。 等</p> <p>○ 各チーム2分間ずつさせる。</p> <p>○ <u>ゲームをしていない児童には、友だちのよいところを探させたり、ルールで工夫した方がよい所はないか考えさせたりさせ、ほめほめカードに記入させる。</u></p> <p>資 ほめほめカード</p> <p>◆ 的をねらって、投げたり当てたりすることができたか。 【技能】</p>
ふり返る	<p>7 友だちのよいところやルールで変えたほうがよいところを発表する。 C: ○○さんが、何回もパスして C: きよりをとおくしたらいいと思います。</p> <p>8 学習のまとめをし、次時の予告をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ ○○くんが、じょうずになげていた。 ・ 友だちにもパスをする。 </div> <p>9 自己評価をする。 10 整理運動をする。</p>	8	<p>○ <u>発表できた児童や友だちから褒められた児童を賞賛</u>し、自信とこれからの活動の意欲を高めさせる。</p> <p>◆ 友だちのよさを見つけたり、助け合ったりしてゲームをすることができたか。</p> <p>【人間関係づくりの視点】</p> <p>資 発表ボード</p> <p>○ 新しく決まったルールを確認するとともに、再度児童の賞賛をする。</p> <p>○ 心と体を落ち着かせるために、ゆっくり大きく整理運動をさせる。</p>

4 授業の様子

場の設定

- フラフープ、的、ボールなど、数が十分にあり、子どもたちの興味を引く工夫があった。
- ほめほめカード（友だちのよさを書くカード）を書くのは、低学年にはやや時間もかかり難いようであるが、それにより意識付けが明確になされていた。
- 小グループでボールをゆずり合ってさわる機会が多くあり、お互いのよさを具体的に気付くことができた。



子ども同士の話し合い、声かけ

- 相手の名前を呼んでパスしており、キャッチボールがスムーズにうまくいっていた。子どもたちも嬉しそうな表情をしていた。
- 拍手をしたり、声をかけたりしながらチームで協力していた。ゲームに集中して取り組んでいたのもよかった。
- 「友だちのよさ」について多くの手が挙がり、お互いをよく見ていることが感じられた。



教師の手立て、指導助言

- ゲーム中、各グループの一人一人に声をかけ、やる気を引き出していた。
- 作戦やルールなど、多くの意見が出て、それらを取り入れようとするところがよかった。
- 聞く姿勢のよい児童を賞賛することで、他の児童もそれに習おうと努めていた。
- 子どもたちの発表を温かく受けとめる教師の姿勢があった。



5 成果と課題

視 点	成 果	課 題
場の設定	<ul style="list-style-type: none"> ・ 短時間の準備で、たくさんの活動ができる工夫が今後もあれば、子どもたちが自然に取り組める活動につながっていく。 ・ ルールが簡単で、自然に活動できる場が“よい場”であり、今回はそのような場ができていた。 ・ 友だちの活動の動きを見合う場があったのはよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大きな的から小さな的へ変えていくなど、みんなが楽しめるルールを考慮してほしい。 ・ 投げ方の絵を拡大して掲示し、確認させるようなこともあればよかったと思う。 ・ 中心となる運動の量が足りなかったことで、達成感や満足感を与える動きになるように考える必要がある。
子ども同士の話し合い、声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 味方どうしでの声かけはよかった。 ・ 練習する中で、サポートし合っていた。 ・ 「〇〇さん 投げてないよ」と友だちを気づかう子もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 待っているチームともっと関わられるような手立てがほしい。 ・ 運動が得意ではない児童もほめられる視点の持ち方を、教師が誘導していけばよい。
教師の手立て、指導助言	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師の思いが伝わる授業だった。教師の一生懸命さが感じられた。子どもたちへの温かい声かけがあった。 ・ 子どもを指導するより、ほめる方が効果があることを学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間がない時の活動内容をどう精選していくのかを考えていくようにする ・ 人間関係づくりに重点をおきすぎ、体育の特性が少し弱くなった。

IV これまでの成果と課題

「人間関係づくり」を推進するための第1段階として、1年次は「人間関係づくりについて、本校の抱える課題の集約」「各教科・領域の中で、人間関係づくりを生かす学習指導のあり方」について研究を進めている。これまでの研修では、理論的なことを深めること、指導案の形式について統一すること、児童の実態を把握してこれからの手立てを考えることなどを中心に組み立ててきた。

1 成果

- 「人間関係づくり」について、本校の抱える現状をとらえ、問題点を絞ることができた。
- 学校生活の中の「朝の会」「朝の活動」「清掃」などにおける生徒指導の工夫について、各学年とも実践事項を出し合い、人間関係づくりに役立てた。
- 各教科・領域の中で、人間関係づくりを生かす学習指導のあり方について、研究授業を実施し、成果と課題を見つけていくことができた。
- 人間関係づくりの視点に立った学習指導案の形式と書き方を統一し、基本的指導過程についての共通理解を図ることができた。
- 「学校の楽しさ」「授業への関心」「楽しく話せる友だち」「悩みを相談できる友だち」「先生への相談のしやすさ」「自分の考えや思いの伝達」などのアンケートで児童の実態を把握し、課題を明らかにすることができた。

2 課題

- 各教科・領域の本質を大事にしながら，人間関係づくりを生かせる場を設定していく。
- 研究授業を実施する際は，「授業仮説」ならびに「本時の視点」を設定にし，それに基づく授業研究を行い，成果や課題，改善策を明確化していく。研修の積み重ねを確実に行うようにする。
- 授業以外での，日々の人間関係づくりに関わる取り組みも大事にしていく。
- 「学習過程」「人間関係を高め合う学習活動」「低・中・高におけるめざす子どもの姿」「人間関係づくりを目指す教師の手立て」について，更に研究を進めていく。
- 人間関係づくりを生かす学校環境の整備を進めていく。
- 次年度に向け，人間関係づくりの心情や態度，実践力を高めることのできる教科・領域の絞り込みを行う。